

## 〈報告〉

## 中学生の健康状態及び生活習慣に影響を与える親の養育態度の検討

土佐江梨香\*・土屋 基\*・大津 一義\*

## The influence of parents' child-rearing attitudes on junior high school students' health condition and lifestyle

Erika TOSA\*, Motoi TSUTIYA\* and Kazuyoshi OHTSU\*

## 1. 緒 言

近年、我が国は科学技術の発展に伴い、快適な生活環境へと変化する一方で、栄養過多、体力低下、睡眠不足等、生活習慣に歪んだ変化を及ぼしている。これに対して、厚生労働省は「健康日本21」を策定し、「一次予防」を重視した対策を打ちたてた<sup>1)</sup>が、生活習慣病の問題は年々発症年齢が若年化している。このような社会背景から、中学校学習指導要領の保健体育に「健康の保持増進には、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を続ける必要があること」と示され、生徒の健康増進、生活習慣の確立は重要な課題とされている。また、生活習慣は家庭、学校、地域が連携を図りながら指導及び実践を子ども達に促していくとされている。

そこで本研究では家庭に着目し、中学生の健康状態及び生活習慣の実態把握をふまえて、健康状態を高め、望ましい生活習慣を形成する上での好ましい親の養育態度について検討する。

## 2. 方 法

2008年9月~10月に、中学2年生を対象とし、千葉県内の公立中学校2校に無記名・自己記入式の調査を行い、319名の回答を得た。このうち有効回答数204名(男子105名、女子99名)に対し分析を行っ

た。調査票は徳永らの「健康度・生活習慣診断検査(DIHAL.2)」と辻岡らの「親子関係診断尺度 EICA」を使用した。また、本研究での養育態度とは子どもからみた父親と母親の養育態度である。分析はSPSS 15.0 for Windows を用いて t 検定、カイ 2 乗検定、一元配置の分散分析、ピアソンの積率相関などを行った。

## 3. 結 果

## 3.1 中学生の健康状態及び生活習慣の実態

「DIHAL.2」の結果、運動得点は有意差が認められ ( $p < 0.01$ )、男子(31点)は女子(29点)に比べ高い結果となった。有意差は認められなかったものの男子は女子に比べ、健康度(身体的健康度、社会的健康度)及び生活習慣(運動、食事、休養)の得点が高かった。また、「健康度・生活習慣パターン」の4類型、すなわち「充実型」、「生活習慣要注意型」、「健康度要注意型」、「要注意型」別にみると、男女とも「充実型」が最も多く、次いで、「要注意型」であった。

## 3.2 中学生からみた親の養育態度

「EICA」の結果、男女において有意差は認められなかったが、男子は父親、女子は母親においてそれぞれ情緒的支持(5.4点、5.2点)や受容性(11.3点、11.1点)の得点が高かった。

\* 順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科  
Graduate School of Health and Sports Science,  
Juntendo University

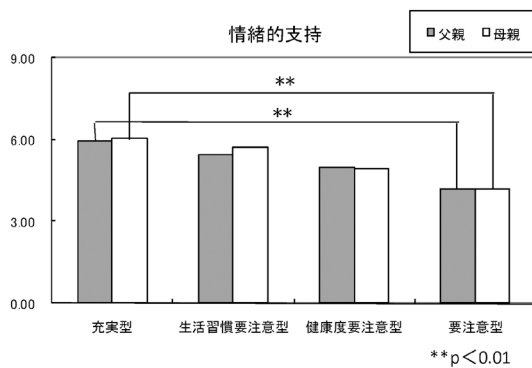


図1 女子からみた親の養育態度(情緒的支持)

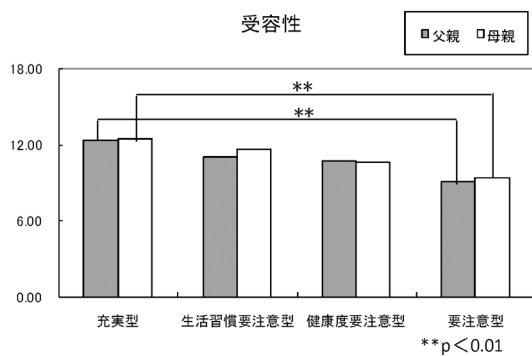


図2 女子からみた親の養育態度(受容性)

### 3.3 「健康度・生活習慣パターン」の4類型と中学生からみた親の養育態度との関係

「健康度・生活習慣パターン」の4類型別に親の養育態度をみた結果、男子では4類型と親の養育態度において有意差は認められなかった。一方、女子では有意差が認められ、「充実型」は「要注意型」に比べ、父親及び母親の情緒的支持や受容性を強く認識していた。

### 3.4 健康状態及び生活習慣の男女別と親の養育態度との関係

男子の全体的な健康度は父親の統制と有意な負の相関を示していた ( $p < 0.05$ )。全体的な生活習慣に関しては父親及び母親の養育態度はあまり影響していなかった。一方、女子では全体的な健康度と生活習慣において父親及び母親の情緒的支持や受容性で有意な正の相関を示していた ( $p < 0.05$ )。

## 4. 考 察

### 4.1 中学生の健康状態及び生活習慣の実態

男子は女子に比べ、健康状態(身体的健康度、社

会的健康度)が良く、望ましい生活習慣(運動、食事、休養)を形成している傾向がうかがえた。中でも、運動面での生活習慣は顕著であった。

### 4.2 中学生からみた親の養育態度

男子は父親、女子は母親から情緒的支持や受容性を認識しやすい傾向にあることから<sup>3)</sup>、同性の親と親密な関係を持ちやすいことが考えられた。

### 4.3 「健康度・生活習慣パターン」の4類型と中学生からみた親の養育態度との関係

「健康度・生活習慣パターン」の4類型別<sup>2)</sup>に親の養育態度をみた結果、男子は4類型と親の養育態度との関連はみられなかったが、女子は「充実型」の方が「要注意型」に比べ、父親及び母親の情緒的支持や受容性を強く認識しており、健康状態や生活習慣に親の養育態度が影響していることが示唆された。

### 4.4 健康状態及び生活習慣の男女別と親の養育態度との関係

女子は男子に比べ、父親及び母親の養育態度の中でも、情緒的支持や受容的な態度を強く認識している者ほど健康状態は良く、望ましい生活習慣を形成していた。

## 5. 結 論

本研究では、中学生が良い健康状態を保ち、望ましい生活習慣を形成する上で、親の養育態度のうち情緒的支持や受容性が重要であることが明らかになった。特に、女子は男子に比べその傾向にあることがうかがえた。

(当論文は、平成20年度順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究科の修士論文を基に作成されたものである)

## 文 献

- 1) 厚生労働省：健康日本21(2000)
- 2) 徳永幹雄：「健康度・生活習慣診断検査(DIHAL.2)」の開発, 健康科学, 27, 55-70, (2005)
- 3) 辻岡美延, 山本吉廣：親子関係の類型：親子関係診断尺度 EICA, 教育心理学研究, 26(2), 84-93, (1978)

(平成21年3月31日 受付)  
(平成21年3月31日 受理)